

鎌倉文化—鎌倉仏教の展開（１）

鎌倉文化は、新政権の成立に対する公家の深刻な危機意識の中で生み出された。その複雑な動向を思想の面で集約するのが、鎌倉時代の仏教であろう。武士の台頭・相次ぐ乱は、末法思想を裏付けるのに充分であった。末法思想の確信で一層流行した浄土教と、文学を通じて深められた人間観が結びつき、両者は法然によって深化されていった。そして鎌倉時代も半ばを過ぎると、法然に始まる新しい浄土教が庶民の間に浸透し、また禅の受容が進むにつれて仏教のあり方も徐々に変化を見せるようになっていった。

○人間観の深化

浄土教を信じるとして、どうしたら往生おうじょうし、そして仏になれるのか。

●法然（1133～1212年）

<教え>

阿弥陀仏の意に適い、往生する方法は何か。

⇒⁽¹⁾ _____（源空）は、「阿弥陀仏」の名を唱える念仏を、
全ての人ができ、阿弥陀仏の意に合う行為だと考えた。

- ①念仏に専念して修める（⁽²⁾ _____）。
- ②すると死後には必ず極楽浄土に往生おうじょうできる。
- ③極楽で如来の導きを受けて仏になる（成仏）。

◇法然は当初弾圧を受けたが、次第に信者が参集

<関連事項>

宗派…⁽³⁾ _____

著書…『⁽⁴⁾ _____』

中心寺院…⁽⁵⁾ _____（京都）

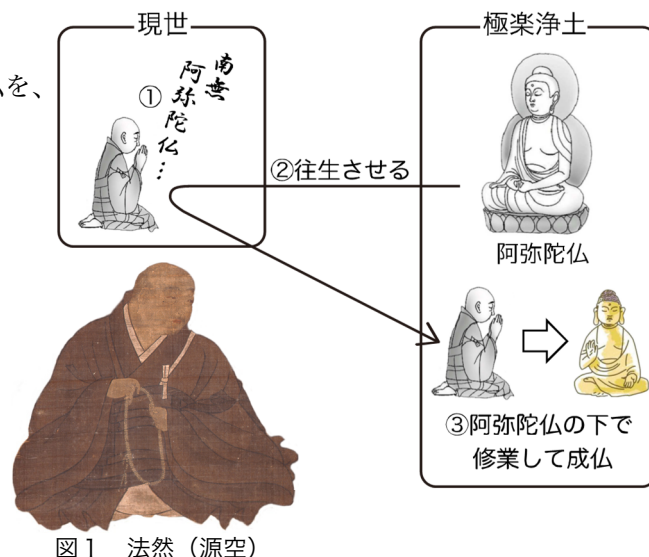


図1 法然（源空）

●親鸞（1173～1262年）

<教え>

法然の弟子の⁽⁶⁾ _____は、やがて別の考え方をもった。

→人間の内実の徹底的な凝視（人間観の深化）を求めた。

⇒(6)は、悪人こそが救済の対象であるとする、

⁽⁷⁾ _____を説くに至った。

- ①人間の内実を自覚して「阿弥陀仏」への信心をもつ。
- ②信心をもって念仏を唱える。
- ③すると最初の念仏で、死後には必ず成仏できると定まる。

◇(7) … (6)の弟子唯円ゆいえんが著書『歎異抄たんにしやう』で紹介

<関連事項>

宗派…⁽⁸⁾ _____（_____）

著書…『⁽⁹⁾ _____』

中心寺院…⁽¹⁰⁾ _____（京都）

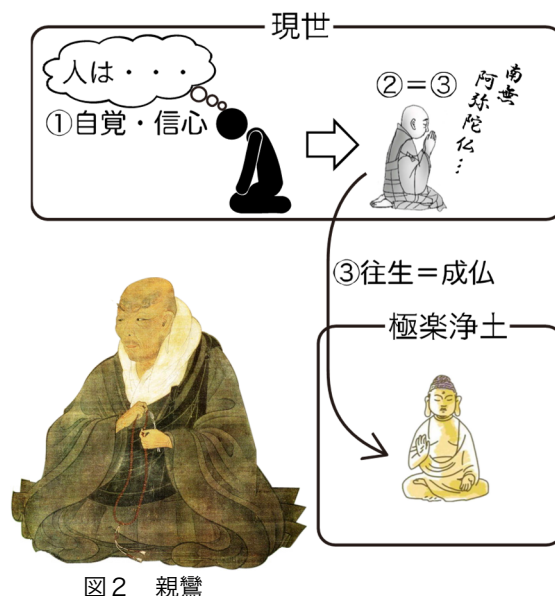


図2 親鸞

Q. 「悪人正機説」の「善人なをもちて往生をとぐ、いはんや悪人をや（善人でさえも極楽に往生できる。まして悪人が往生できないことがあろうか）」とはどういう理屈か？

善人… _____

悪人… _____

⇒悪人は善人よりも一心不乱に阿弥陀仏を信じ、これが阿弥陀仏の本願にかなうから。



○禅の受容

当時、全ての者が「末法思想」と、それによる「浄土教」を信じたわけではない。
解脱して成仏するための釈迦の教えは、今なお有効であるという主張もあった。

●栄西（1141～1215年）

<教え>

⁽¹¹⁾ _____ は、末法で動揺した日本仏教を立直すために、
大陸の禅宗を学び、修行の中心に座禅を据えた教えを説いた。

- ①座禅をして、禅（心の安定・統一）に至る。
- ②師からの課題⁽¹²⁾ _____ に答える（問答）。
- ③(12) を通じて真理を理解し、解脱・成仏できる。

<臨済宗と幕府>

栄西は、布教のために幕府を頼った。

⇒幕府は大陸で主流の禅宗に関心を持ち、庇護の対象とした。

◇栄西は茶の開祖とされ、茶の効能を説いた『喫茶養生記』を
3代将軍源実朝に献呈し、日本の飲茶の習慣普及に貢献



栄西の死後も、臨済宗は幕府の保護を受けて栄えた。

⇒南宋からの禅僧⁽¹³⁾ _____ ・⁽¹⁴⁾ _____ が来日し、
(14) は⁽¹⁵⁾ _____ を、(15) は⁽¹⁶⁾ _____ を建立した。

◇(14) …北条時頼が帰依／(15) …北条時宗の招きで来日



図3 栄西

Q. 片手で鳴る音は？



図4 公案

<関連事項>

宗派…⁽¹⁷⁾ _____

著書…『⁽¹⁸⁾ _____』

…『⁽¹⁹⁾ _____』

中心寺院…⁽²⁰⁾ _____ (京都)



図5 蘭溪道隆の頂相

●道元（1200～1253年）

<教え>

⁽²¹⁾ _____ は、栄西の弟子に学ぶが、純粹に坐禅のみを重視した。

- ①ひたすらに坐禅をする（⁽²²⁾ _____）。
- ②真理を体得して、解脱・成仏できる。

<関連事項>

宗派…⁽²³⁾ _____

著書…『⁽²⁴⁾ _____』

中心寺院…⁽²⁵⁾ _____ (福井)

◇(23) …幕府・朝廷などの権勢に近づかないように警告

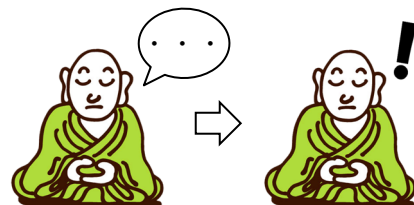


図6 道元